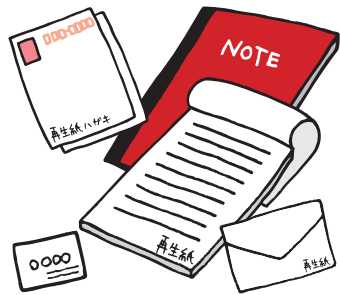




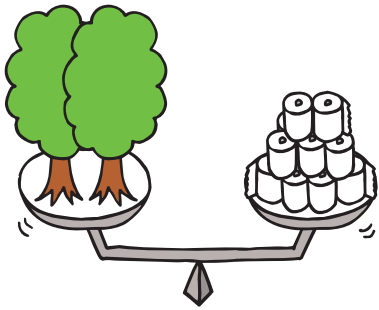
紙をリサイクルして 森林資源を守ろう!

ハガキやノートは
再生紙を使おう



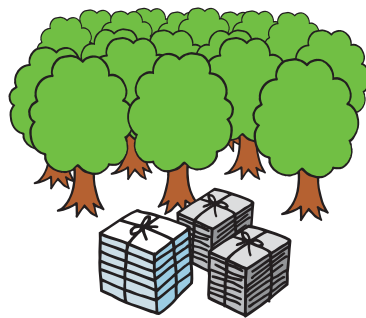
年賀状や暑中見舞のハガキ、お子さまの学習ノート、封筒や便箋、名刺、身近な文房具などは再生紙の製品を選ぶ心がけを。現在では再生紙の紙質も向上し、普通紙とほとんど変わらなくなっています。

トイレットペーパーは
古紙100%を



トイレットペーパーはリサイクルできない使い捨ての製品。だからこそ、古紙100%のものを選びたいものです。

古紙はまとめて町の
収集日に出そう



読み終わった新聞や雑誌、書籍などはごみにせず、町の収集日(紙類)に資源として出しましょう。古紙1tをリサイクルすると、森林の立ち木20本を守ることになります。



エコマーク

環境を汚さずに使える商品、環境を改善できる商品、捨てても環境を汚しにくい商品として認定されたものについています。



グリーンマーク

古紙を再利用して作った雑誌やノートなどについています。このマークを集めた学校や町内会は、苗木やリサイクルノートと交換してもらえます。



環境マークを
チェック!

お買い物の参考に:

毎日の暮らしの中で
紙をリサイクルする
方法をアドバイス!



【キーワード事典】

コンポスト

身近なところでは、台所から出る生ごみから作った堆肥のことをさします。コンポストをつくる装置には、土壌中の微生物たちの力を借りたコンポスト容器や、機械の力を借り、短い時間で処理できる装置もあります。いずれも便利な装置で、この装置のことを総称してコンポストと呼ぶこともあります。

ワンウェイびんとリターナブルびん
ガラスびんは1回限りの利用を前提として作られるワンウェイびんと、洗浄して繰り返し利用されるリターナブルびんとに分けられます。ワンウェイびんは砕かれて、新しいびんを作る原料としてリサイクルされています。ガラスを再利用すれば、原料からガラスを作るときに必要なエネルギーの約20%を節約できます。一方、リターナブルびんの再利用できる回数は、ビールびんは15〜16回、牛乳びんは50〜60回、1升びんは12〜13回です。

- 発行—— 栃木県 生活環境部 環境整備課
〒320-8501 栃木県宇都宮市埴田1-1-20 TEL.028-623-3227 FAX.028-623-3113
- 問合せ先—— 栃木県 生活環境部 環境整備課 TEL.028-623-3227
馬頭町 環境整備対策室 TEL.0287-92-1112



グリーン・ライフ Green Life ばとう

快適で安全な暮らしのために

vol. 1

今回のテーマ **ごみと循環型社会**



「グリーン・ライフばとう」は、快適で安全な暮らしのために、「ごみ問題についてのさまざまな情報を提供し、みなさんとともに考え、よりよい環境づくりに取り組んでいく」ことを目指して発行するものです。

環境にやさしい暮らしのために
ごみについて
知ることから
はじめましょう!





循環型社会

ってどんな社会なの？

必要な資源を
むだなく大切に使う
ための「3つのR」
が重要だよ。



循環型社会を目指す
5つのポイント

3つのR

① 発生抑制 ^{リデュース} Reduce

使う量、買う量を減らす

- 商品を買うときは、包装が簡素なものを選ぶ。
- 丈夫な製品を、長く愛用する。 など

② 再使用 ^{リユース} Reuse

くり返し何度も使う

- 一度使った牛乳ビンやビールビンなどをくり返して使う。
- 古着などは、フリーマーケットに出す。 など

③ 再生利用 ^{リサイクル} Recycle

再生して使う

- 古新聞や古雑誌を再生して、トイレットペーパーとして使う。
- ごみは分別して出す。 など

④ 熱回収

資源として使えないものは、
燃やしてその熱を利用する

- ごみを燃やしたときに出る熱を発電や温水プールに利用する。 など

⑤ 適正処分

どうしても捨てるしかないものは、
環境を汚さないようにきちんと処分する

- ごみの埋立は、周辺の環境に影響がないように行う。 など

それでも使えない
ごみはきちんと
適正処理が
必要だよ。



「捨てない 混ぜない
再使用」これが
第一歩になるのね。



ごみを減らして資源を
有効利用する社会のことだよ！

限りある資源を
有効利用し、天然資源を
守りながらごみの発生量
を抑える「循環型社会」を
つくっていくことが
必要だよ

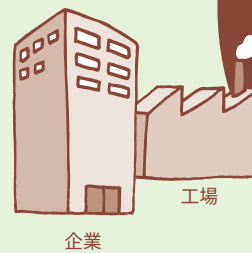


これからは



天然資源

① 発生抑制



生産者

循環
サークル

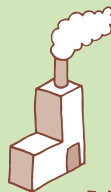
消費者



② 再使用



リサイクル業者



④ 熱回収



③ 再生利用

⑤ 適正処分

中間処理・最終処分

ごみデータ

栃木県のごみ排出量

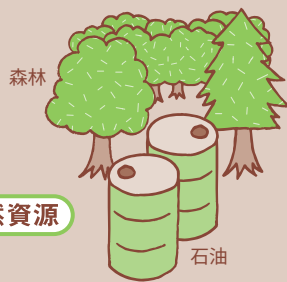
一般廃棄物	55万トン	70万トン	71万トン	72万トン
産業廃棄物	528万トン	595万トン	645万トン	650万トン
	昭和60年	平成元年	平成5年	平成10年

資料：県生活環境部環境整備課調べ

ごみの量がなかなか
減らないために
その処分は年々厳しく
なっているんだ。



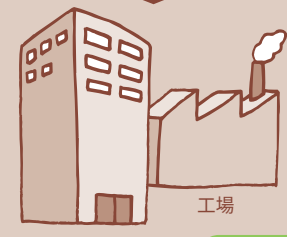
今までは



天然資源

石油

大量生産



企業

生産者

大量消費

消費者



大量廃棄



焼却場

最終処分場

中間処理・最終処分

「大量にモノを作り、
大量に消費し、大量に
ごみを出す」ことで
モノを捨て続けて
きたのね。

